

本誌の休刊に際して

平林初之輔

この二月號をもつて、本誌は當分休刊することに決定した、つい前月まで、健康な足どりをもつて進んで來た本誌、わけでも、四十年の光輝ある歴史をもつた本誌が、突如として休刊の決定を見るに至つたことは、讀者諸君にとつては、非常に意外であつたらうと思ふ。この事實が舊臘都下の一新聞に報導されたとき、私たちは、長い間本誌のために恩顧を寄せられた多くの執筆者と讀者とから、あれば事實が、どうしてやめるのか等の質問を頻々と受けた。だが遺憾ながらそれは事實なのである。悲しむべき、だが何とも致しかたなき事實である。しかも今はたゞ深き事情に立ち入らないでこれだけの

報導をもつて讀者に満足してゐた、かなければならぬ。私たちは不敏非才、名譽ある本誌の諸先輩の遺業を完うることの出来なかつたことを深く愧ずるものである。しかしながら私たちのスタッフに於ける生活と仕事とは、私たちの一生を通じて、最も楽しい、最も忘れたくないもの、一つであつた。私たちの間には、たへざる協働の精神と、心からなる親愛の情操とが支配してゐた。それは協同生活の模範であつたと言へよう。従つて、私たちは、私たちとしては終始その最善をつくすことができたのである。

しかしながら、讀者諸君の熱烈なる後援と、執筆諸家の猷

身的援助とがなかつたなら、私たちは何事をもなすことができなかったであらう。私は特に、この期にのぞんでこれ等の人々に衷心からの感謝をさし、けることを許していただきたいと思ふ。

なほ、本社編輯主幹長谷川天溪氏が、編輯の實務に不馴れな私たちに對して、絶えず慈父の如き示教と嚮導とを與へられ、私たちをして大過なからしめて下さつたことに對して新たな感謝を禁じ得ないものである。

本誌の休刊もさう長いことあるまい。またさうであつてはならぬ。緣日露店に見られるやうな零細浮薄なる讀物を追ふに汲々たる最近の雜誌界に於て本誌の如き高級雜誌の存在は絶對に必要である。遠からぬ將來に於て、何等かの形をもつて、何人かの手によつて、本誌が生々とした更生の姿を見せることを私たちは衷心から期待してゐる。

最後に、少しく私的な報導をすることを許していただきたい。私たちの同僚の一人である長谷川浩三君はいま病褥に横はつてゐる思ひ出深いこの二月號の編輯にあたつてその溫容に接することのできないことは遺憾である。同君が一日も速く全快してその質實なる作風をもつて文壇に雄飛する日を一日も早く見たいものである。新婚間もない青年詩人料治熊太

君はいま幸福そのものである。若き藝術家高梨菊二郎君、眞率なる學徒林柁木君の胸中には多事なる未來の夢が往來してゐるに相違ない。本誌の休刊に際してお互をむすびつける友愛はかはらずとも、しばし別々の途を辿るであらう、これ等の同僚たちの未來に幸あらんことを私は心から祈るものである。

今や思想、政治、經濟、藝術その他百般の生活分野に於て日本は空前の大轉換期に際會してゐる。私たちは、この多難ではあるが、しかも生き甲斐ある時代に生れたことを祝福しなければならぬ。何故なら一切の障礙、一切の反動を排除して、新日本の建設に向つて進むことこそ私たちの無上の喜びでなければならぬからである。私は日本の有識階級を代表する本誌の讀者諸君の精進を、お別れにのぞんで特に祈つてやまないものである。